

氏名	平 松 英 彦
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 180 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和41年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系整形外科学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学 位 論 文 題 目	慢性関節リウマチの線維素溶解現象に関する研究
論 文 審 査 委 員	教授 児 玉 俊 夫 教授 水 原 舜 爾 教授 山 本 道 夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

炎症の場におけるプラスミンの重要性からも、また、慢性関節リウマチ（以下リウマチ）滑膜の特徴的なフィブリン滲出、フィブリノイド膨化、変性を呈する病理組織像からも、プラスミンが主要な役割りを果たしていることは想像に難くない。そこで、私は、リウマチ血清および関節液の線維素溶解現象（以下線溶）を測定し、病態生理学的研究を行ない、次のような結果を得た。

- 1) リウマチ血清線溶は、正常血清よりも高く、とくに、リウマチ活動性の旺盛な時期は、鎮静期よりも高い。血清 RA 試験、赤沈、血清蛋白量および血清フィブリノーゲン量とは相関関係を認めず、CRP反応陽性群の線溶は、陰性群よりも高い価を示した。
- 2) リウマチ関節液線溶は、正常関節液よりも高く、関節貯液量と相関関係を示し、関節液 CRP 反応陽性群は、陰性群よりも高い価を示した。しかし、関節液 RA 試験、赤沈、関節液蛋白量との相関関係は認めなかった。
- 3) 病理組織学的に滑膜にフィブリン析出の著明本 Coatingtypeでは、関節液線溶は高い価を示した。

岡山医学会雑誌才78巻1号（昭和41年1月31日付発行）に掲載予定。

論文審査の結果の要旨

平松英彦提出の「慢性関節リウマチの線維素溶解現象に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

慢性関節リウマチの線維素溶解現象は、最近各方面より追求されている。平松の研究は、岡大整形外科リウマチクリニックの患者についてなされ、臨床的経過のみならず、関節液と血清との相関関係、関節滑膜の組織像との関係等の特異なる領域からもなされている。

またオスミウム酸注入による chemical synovectomy の際の激しい関節炎症に際しての動的研究もなされた。

線維素溶解現象がCRPと関係があり、また滑膜の病理組織学的変化がフィブリン析出の著明な Fierinoid-Coating type にも関係があることを証明した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。